

2020年度 社会福祉法人 京都愛心会 特別養護老人ホーム宇治愛の郷
事業計画

1、事業目的

当法人は、運営理念に基づき高齢者福祉に貢献することを目的とし、老人福祉法、介護保険法の遵守に努め、多様な福祉ニーズの変化に迅速かつ柔軟に対応出来るように、創意工夫しながら入所者が個人の尊厳を保持しつつ、施設での生活を通じて、自立した生活を地域社会で営むことが出来るように支援します。

入所者一人ひとりの意思及び人格、自己決定を尊重し、施設サービス計画に基づき、入所者がその人らしい生活が継続出来るよう、自律的日常生活が営めるような支援をすることを目的とします。

2、基本方針

施設の基本方針に基づき、入所者の安全・安心な生活が送れることを常に考えながら、良質な各種サービスの提供が出来るように支援します。その為に、急変時の対応（救急の受け入れ体制の確立）、感染症や事故予防の為に取り組み、看取り介護・看護など円滑に行くために、宇治徳洲会病院や、徳洲会介護部門との連携を図り、体制の構築に努めます。施設内では、委員会活動や、勉強会を通じて、職員一人一人のスキルの向上と、チーム力の強化を図ります。

3、施設年度目標

1) 働きやすい職場環境の提供

- ①介護士の確保・定着・育成
- ②福利厚生基盤強化
- ③職員満足度の向上を目指す（2019年度満足度調査の分析・改善）
- ④有休消化率のアップ

2) 利用者が安全・安心して生活できる環境の提供

- ①事故予防対策の強化（レベル3以上の事故を0にする）
- ②利用者のQOL（生活の質）を高め、ケアの質の向上を目指す
- ③感染症対策の強化
 - ・集団感染予防対策のためのマニュアルの活用、職員教育の徹底化

3) 経営への意識向上

- ①安定した入所者稼働率の確保・空室日の減少
 - ・長期入所 98%以上目標
 - ・短期入所 80%以上目標
- ②コスト削減（節電・消耗品・材料費などの無駄を減らす）

4) 終末期看護・介護

- ①看取り受け入れ体制の強化
- ②病院との連携強化

5) 教育体制の確立（職員の質の向上に努める）

- ①定例の勉強会参加率のアップ（不参加者はレポートの提出）100%目標

- ②施設外研修への参加率のアップ
- ③看護・介護リーダー教育の導入（介護副主任を中心に、指導者の育成）
- ④リーダー教育の確立・システム化（関西ブロック徳洲会介護部会との連携）

4、重点目標

「人材の確保と育成」を、今年度も第一の課題として取り組みたいと思います。それに向け、職員一人ひとりが責任とやりがいを持ち、成長できるシステムの構築と、指導者の育成が必要です。その為には、責任感のある人材の育成を目指し、ケアの質の向上に努めてまいります。

高いサービスの質を追求するためには、知識・意識・技術（スキル）が必要です。職員のスキルを高めるために、教育委員会を中心に、年間の勉強会を計画し開催していくことや、徳洲会介護部門と連携し人材育成をしていきます。そして、現在取り組んでいるリーダー教育を実践で生かせるための指導者の育成と、システム化をしていきます。また、各委員会で取り組んでいる課題や計画を教育に活かして行きます。

利用者の高齢化に伴い、ケアにかかる時間が増えており、忍耐力が求められます。介護士の移乗介助時、腰への負担軽減をはかるためにも、「生活支援ロボット、マッスルスーツ」の導入を検討します。

職員の満足度アップのためには、管理運営や組織体制の見直しと、職員や職種間の連携強化や職場風土の構築が必要です。働きやすい職場作りを目指し、職員の経営への意識向上を目標に、安定した施設運営ができるようにリーダー教育にも力を入れ、職員が働きやすい環境の提供と、利用者が安全・安心して生活出来るための施設作りを目指します。

ショートステイでは、地域包括センターや、他施設のケアマネとの連携を強化し、サービスも含めた営業活動と、サービス担当者会議で情報共有図りながら、利用者を増やすことで稼働率アップに繋げて行きます。

5、職員教育計画

（施設内研修）

開催月	勉強会テーマ	開催月	勉強会テーマ
4月	接遇マナー研修 排泄概論	10月	看取り研修 スキンケア
5月	口腔ケア概論 事故発生再発防止・危機管理	11月	感染症予防実践編 倫理及び法令順守
6月	感染予防対策基礎編 食中毒について	12月	感染対策（ノロ・インフル対応策） 記録・ケアプラン
7月	介護保険サービス① 急変時の対応（BLS）① 認知症ケア概論	1月	急変時対応（BLS）② 認知症ケア実践編 非常時・災害発生時対応②
8月	褥創予防・ポジショニング 摂食嚥下について	2月	身体拘束廃止／虐待防止 介護職が行ってはいけない医療行為
9月	移乗・介助方法実践編 非常時・災害発生時の対応① 介護保険サービス②	3月	看取り研修 事例検討② 個人情報保護及びプライバシー保護の取り組み

*上記以外で各委員会での勉強会も予定

(施設外研修)

- ・徳洲会関西ブロック主催研修会
- ・宇治徳洲会介護連携プロジェクト主催研修会
- ・看護協会・府老協・他研修会

6、介護老人福祉施設事業計画・運営（長期 80 床）

利用者の高齢化や、病院の敷地内に施設があるため、他施設と比べると、定期受診が多く、入院する利用者も増えてきています。そのため利用稼働率が目標達成にならず、経営にも影響が出てきています。空所日を少なくしていくことで、待機者の受け入れも早く出来、経営安定にも繋がられます。

今年度は、病院や、嘱託医との連携を強化し、病院受診の判断や、早期退院の受け入れをしながら、入院日数の減少に繋げて行きます。入院後に医療的処置が増え、特養での生活が困難になったと判断した場合は、療養型への転院の方向性で、病院のケースワーカーと連携し、一旦退所の手続きをします。その後病状が安定し施設での生活が可能になった場合は、空室状況を考慮しながら再入所を検討します。早期に判断していくことで空室日の減少に繋げて行きます。また、利用者や家族の意向も大切にしながら、終末期で施設看取りを希望された場合は、積極的に受け入れて行きます。

利用者の2/3の人が認知症です。また、定期受診をしている利用者も多く健康管理や、個々に応じたケアの提供が今まで以上に必要です。マンパワーの問題もありますが、職員一人ひとりの力量が求められるため、介護士としての資質や、仕事に対しての姿勢などを見極めて採用していく必要があります。利用者の意思及び人格を尊重でき、適切なケアが出来る職員育成をしていく事が、利用者の施設での生活の満足度にも影響するため、人材確保時には見習い期間を設けて採用を決定していきます。職員がマンネリ化しないためにも、ユニットの配置換えをしながら特養で働く職員としての自覚を高めていき、日常のケア以外にも配慮できる人材の育成を目指します。

利用者の充実した生活が営まれる為にも、季節毎のレクリエーション、イベントなどを増やし、施設での生活に生きがいを感じて頂けるように昨年以上に工夫していきます。

健康管理面では、誤嚥性肺炎や、尿路感染症、心不全での入院が多く、事故ではレベル3以上（事故で受診や入院）が4件あり、いずれも転倒・転落などが原因で骨折してしまったケースです。施設での生活が穏やかに楽しく暮らせるのも、健康面や、精神面が安定している事が大事です。また、施設内での感染症のアウトブレイク（集団感染）をおこさないことも重要な課題なので、職員教育を継続しながら、利用者の健康状態に応じたケア対応が出来、事故に対しての意識を高めて行く事が発症件数の減少に繋がるため、個人プレイを無くし、チームとしてケア出来るようにマニュアルの整備や、技術指導に力を入れて行きます。

利用者の楽しみの一つでもあり、健康管理面でも重要な、「食欲増進」、「体力の維持」を考え、栄養科や給食委員会の協力を得て、おやつを提供日を増やします。また、昨年と同様に「食旅シリーズ」も継続し、季節感や、郷土感を感じて頂き、利用者の「食への楽しみ」を味わって頂けるような内容を考えています。そして、利用者も参加してユニットで出来るメニューを取り入れ、「食が進む」ための雰囲気づくりや、献立の工夫もしていきます。

7、短期入所生活介護事業計画・運営（短期 20 床）

2019年度は利用稼働率が平均64.5%でした。年間通じて50%以下になる月はなくなりましたが、開設してから5年間目標達成は出来ていません。短期入所の利用率に比べて、長期利用の申し込み者が多い為、短期の10床を、長期利用者に活用出来るように宇治市に働きかけをしています。計画見直しをしていくには時間を要します。

短期入所者の利用数を増やし、利用稼働率を80%以上で安定させなければ、経営にも大きく影響してきているため、利用者を増やす努力が必要です。また、特養施設としての地域での役割も十分に果たせなく、職員のモチベーションにも影響してくるため、今年度は、介護士のマンパワーを充足させて、いつでも受け入れが可能な状況を作っていくことや、近隣の病院・施設・ケアマネと、今まで以上に連携強化し、利用者確保に繋がります。